

飼料用とうもろこしのは種について



① は種適期

日平均気温が 10℃を超えたときが、は種時期の目安になります。平均気温が 10℃を超えるのは、足寄町では5月11日になります。は種に向けて準備をすすめましょう。

② は種時の設定（は種深度、作業速度）

は種深度は、地表面から 3 cm程度の深さになるようにしましょう。この深さであれば、晩霜によってとうもろこしの地上部が枯死しても生長点が守られるので、回復する可能性があります。

また、は種時の作業速度は一定に保ち、欠株等によるロスを減らすようにしましょう。

表1 栽植本数の目安(本/10a)

株間 (cm)	畦幅 (cm)			
	66	69	72	75
16	9,500	9,100	8,700	8,300
18	8,400	8,100	7,700	7,400
20	7,600	7,200	6,900	6,700
22	6,900	6,600	6,300	6,100

③ 栽植本数の考え方

足寄町で栽培される飼料用とうもろこしの多くは、85日～90日タイプです。最適な栽植本数はメーカーや品種によっても異なりますが、10aあたり7,000～8,000本程度がよいと考えられます。

栽植本数が多く密植になると、風通しが悪くなり、すす紋病などの病気がまん延しやすくなります。またとうもろこしの茎が細くなって倒れやすくなり、収穫ロスにつながります。多すぎる栽植本数は見直しましょう。栽植本数の目安は、表1（太枠内）を参考にしてください。

なお、昨年度に実施した栽植本数試験では、7,000本台のTDN収量で5%ほどの減少でしたが、1本重は太くなって倒伏しにくいという結果となりました（図1、2）。倒伏の心配があるほ場では、栽植本数を7,000本程度にするのも選択肢の1つとして検討してはいかがでしょうか。

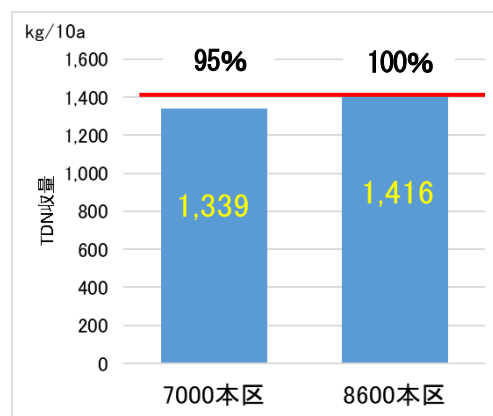


図1 栽植本数の違いによる TDN 収量の差

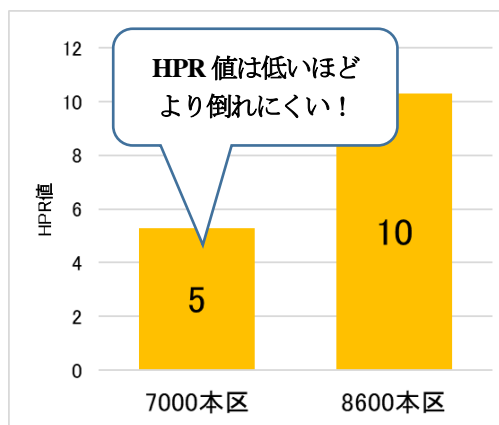


図2 引張強度(HPR 値)の比較